

学校だより NO. 447
令和3年9月1日



〈横浜の教育がめざす人づくり〉

自ら学び 社会とつながり ともに未来を創る人

〈学校教育目標〉

夢や希望をもち、自らの生き方を追求する姿勢をはぐくみ、互いの良さを認め合いながら、ともに社会の創造に貢献しようとする態度を養います。

- ・知 生きて働く知
- ・徳 豊かな心
- ・体 健やかな体
- ・公 公共心と社会参画
- ・開 未来を拓く志

横浜市立品濃小学校 電話 824-0651 FAX 826-2183
URL <https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/shinano/>

パラリンピック

校長 坂井 暢

パラリンピックの起源は1948年7月29日、ロンドン郊外のストーク・マンデビル病院で行われたアーチェリー大会に遡るそうだ。第二次世界大戦で脊髄を損傷した元兵士のリハビリテーションを目的として、車椅子患者16人が参加して開催された。ロンドン五輪開幕に合わせた催しだったということである。

その催しを企画したのは「パラリンピックの父」と称されるルートビヒ・グトマン医師だ。「失われたものを数えるな、残っているものを最大限生かせ」と、負傷兵士の社会復帰を目的に、ポロ、バスケットボール、卓球などスポーツを治療に取り入れたそうだ。グトマン医師は、将来的に障害を持つ選手たちのための五輪と同等の国際大会開催をそのときに想定していた。

時を経て73年後、2度目の東京パラリンピックが開幕した。リハビリの延長から競技性の高いスポーツへと発展して。競技は22競技、539種目に。参加選手は161カ国・地域と難民選手団を加え、4千人超と過去最多の参加者数だ。いろいろな競技をテレビで観戦したが、足の指で引くアーチェリー選手やラケットを口にくわえてプレーする卓球選手など、ハンディを乗り越え磨いた技術には目を奪われる。技術を習得するまでの苦労は想像に難くない。懸命に戦う選手の姿に胸を打たれる。コロナ下、無観客等異例づくめの大会となったが、せめて、テレビ画面を通して、各競技で輝くパラアスリートたちの姿を見てほしいと思う。

ここでパラリンピックにまつわる蘊蓄を二つ。パラリンピックは、下半身麻痺を意味する「パラプレジア」とオリンピックとを掛け合わせた造語で、1964年の東京大会で愛称となり、その後正式な名称となったそうだ。現在は並行を意味する「パラレル」に由来し、「もう一つのオリンピック」と解釈されるようだ。次に紹介したいのは、7年前のパラリンピックソチ大会の閉会式での演出で起きたこと。スタジアムに「IMPOSSIBLE(インポッシブル)」と書かれた強大なブロックが登場。車椅子の選手が両腕だけでよじ登り、IとMの間にアポストロフィーのブロックを入れる。インポッシブル(不可能)だと思えることも、少しだけ考え方を変えたり工夫したりすれば可能になる。「I'm POSSIBLE(私はできる)」。この言葉は、国際パラリンピック委員会の教育プログラムの名称となっている。ちなみに、パラリンピック4つの価値は、

- 1、強い意志＝困難があっても諦めず突破しようとする力
 - 2、勇気＝マイナスの感情に向き合って乗り越えようとする精神力
 - 3、インスピレーション＝人の心を揺さぶり、駆り立てる力
 - 4、公平＝多様性を認め、創意工夫すれば誰もが同じスタートラインに立てることを気づかせる力
- コロナ禍の困難な中、「逆風も人生の力に変えていく」強さを見習いたい。

緊急事態宣言の最中、5日遅れて前期後半の学校生活が始まりました。爆発的な感染拡大が続く中、感染対策に最大限の留意をしながらのスタートとなります。分散登校、マスクの着用、石けんでの手洗い、手指消毒、教室内の換気、前向き無言昼食、休み時間の過ごし方の約束、健康観察の徹底等々、子どもたちにもたくさんの感染防止策への協力が必要となります。子どもたちの不安な心に寄り添いながら、子どもたちの学びを継続し、子どもたちの健康を守っていかねばならないと考えています。ご家庭でも、不安なことはたくさんあるかと存じますが、何かありましたら遠慮なくご連絡ください。子どもたちを守るには、周りの大人が感染しないことも大切な要素となります。まもなく職員は全員ワクチン接種を終える予定です。

今月もご協力よろしくお願ひいたします。